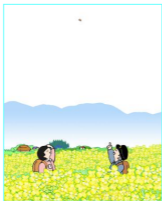


# いでみつけたかし カレンダー



2007 平成19年

幸福を求めている間は  
 たとえ求めるすべてを  
 手中にしようと  
 あなたには幸福である資格はない  
  
 失われたものを嘆き  
 目的にかまけて  
 せわしない日々を送るあいだは  
 あなたは平和のなんたるかを  
 いまだ知らぬ  
  
 一切の願いをあきらめ  
 目的にも 目的を追う我執にも  
 もはやとらわれず  
 幸福をことごとくは  
 口にしなくなったとき  
 そのとき初めてあなたの心は  
 もはや流転の潮にも  
 わずらわされず  
 魂はやすらぎを得るだろう



ヘルマン・ヘッセ「幸福」  
 山口四郎訳、ヘッセ詩集

## 1 月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

春の気配を感じると  
 雪は あっさり  
 退位に同意し  
 白い鎧分を  
 どんどん減らしていく。  
 陽当りのいいところなどでは  
 急いで縮まろうとして  
 美しい肌に  
 しわをつくったりするほどだ。  
 昔の中国に  
 「禅譲」という  
 しきたりがあった。  
 帝王がその位を  
 有徳の人に譲ること  
 と物の本に書いてある。  
 冬の帝王から  
 春の帝王への禅譲は  
 急速に  
 親しみをこめて行われる。



吉野弘「譲る」、吉野弘詩集

## 2月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

嵐に澄んだ山々をくだって  
春がまた驚いろの  
小道をやってきた  
美しい春のおとずれるころ  
かわいい花が咲き  
鳥たちの歌がこぼれる

やさしく花咲くこの  
清らかさのなかにいると  
わたしはやっぱり  
春に心をまどわされて  
つかのまの客にすぎぬ  
この大地を  
わがもののように  
なつかしい故郷のように  
思ってしまう



ヘルマン・ヘッセ「春」  
山口四郎訳、ヘッセ詩集

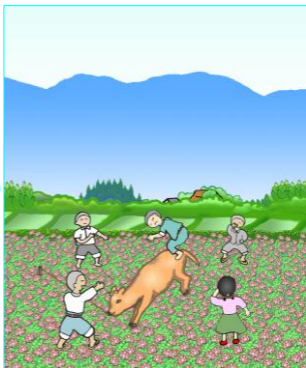
## 3月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

仔牛は  
最後の一跳びをとび  
れんげ草の中にへたへたと  
すわり込んだ。  
僕たちが背中に乗るたびに  
勢いよく尻をあげて  
跳びはねていたのだが・・・。

その夜 父から  
「ばかもん！ あの仔牛は  
お父さんが戦死された丁君方の  
大切な動力源なんだぞ」  
と こっぴどく怒られた。

翌朝早く  
丁君方の牛小屋を  
そっとのぞきに行った。  
僕が摘んでいった  
れんげ草の束を振ると  
仔牛はすくと  
立ち上がった。



いでみつたかし 「ごめんね」

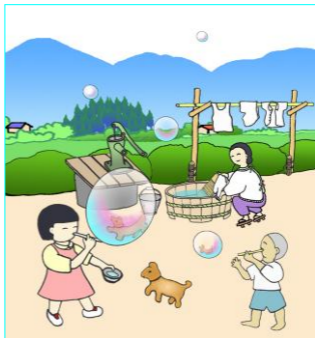
## 4 月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

管の先からふわふわと  
浮いて離れるしゃぼん玉  
大きな、小さなしゃぼん玉  
ういてゆくのは何処だろう  
空は一面すみれ色

細い管からふき入れる  
私の息でふわふわと  
ふくらみあがるしゃぼん玉  
春の光りのまん中に  
飛行船のようにとんでゆく

そっと透かせば綿よりも  
もうすい五色の玉の中  
私の息より出て来たか  
小さな子供が二三人  
天を見上げて笑ってる



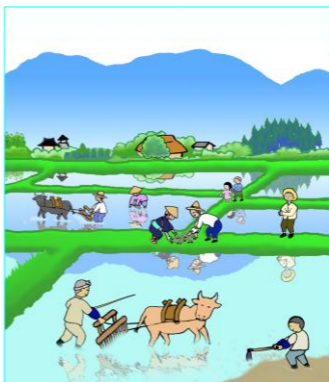
茅野雅子「しゃぼん玉」  
日本童謡集

## 5 月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

裏の田圃で  
 水いたすらを  
 していたら  
 蛙が一匹  
 葉のかけから  
 びょんと出て  
 はだかだ  
 はだかだと聞いた  
 やい 蛙  
 お前だって  
 はだかだ

若山牧水「はだか」  
 日本童話集



## 6 月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

「魚釣り きらりと光る 鮎の腹」  
 僕の処女作、小学4年時。  
 翌日 返ってきた女先生の添削は  
 「また釣れた きらりと光る 鮎の腹」  
 なるほど 俳句らしくなっている。  
 でも そのとき 僕は思った。  
 すこし違うかな、と。

僕らの釣りは  
 ハリ以外の道具はすべて自前。  
 竿は裏の竹やぶから  
 糸は風揚げの紡績糸  
 ウキは肥後守で削り出した。  
 えさも畑のみみず  
 だから  
 そんなに釣れないのだ。

柳条下の深みにひそむ鮎の腹が  
 時々 キラリと光る。それを釣りたい。  
 憧れにも似た少年の想いが  
 拙い僕の句に 込められている。



いでみつだかし 「ふな」  
 (季節では鮎は春か冬。魚釣は季節にない。  
 しかし僕たちにとっては夏の遊びだった)

## 7月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



村境の松の大木に下がる馬の生首  
十石峠に現れるのっぺらぼうの女  
鋭い爪で首をかつ切るかまいたち  
そんな魍魎魍魎が木立の間に蠢く。  
僕は 急ぎ足を一層速めた。

その時 突然  
本物の から傘お化けが  
目の前に にゅうと現れた。  
あまりの恐怖に 僕は固まった。  
逃げようにも 足がすくみ動かない。  
おばけが頭上からのし掛かって来た。  
僕は とっさに下駄を手に持ち  
むやみやたら 振り回した。  
ギャッと悲鳴がした。

ふと気が付くと  
隣のKちゃんが  
懐中電灯と藁束を両手に持ち  
倒れて泣いていた。



いでみつたかし「おばけ」

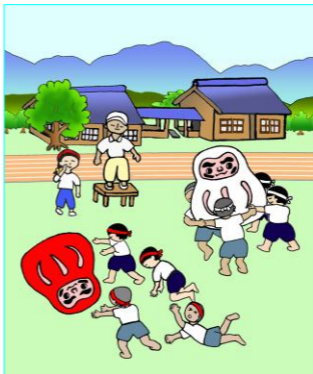
## 8月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

白勝った、  
白勝った。  
揃って手をあげ  
「ばんざあい」  
赤組の方見て  
「ばんざあい」

だまっている  
赤組よ、  
秋のお屋の  
日の光り、  
土によごれて、ころがって、  
赤いだるまが照られてる。

も一つと  
先生が云うので  
「ばんざあい」  
すこし小声になりました。



金子みすず「達磨おくり」  
金子みすず特集

## 9月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

井戸端

村のはずれの  
ひなびたわが家  
障子に灯りの  
ともるころ  
薄暗い井戸のまわりは  
今日もにぎやか。  
「お父さん、はやく  
ポンプ、ポンプ」  
カチャカチャ  
ザーザー 水の音  
どろんこ手足は、  
きれいになった。  
台所では おかあさん  
くっくっ くっくっ  
鍋の音  
お肉と野菜の  
いいにおい。



詩：やまさきだけひろ

10月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

穴の中に 頭から胸まで入り  
大事に 大事に  
それを 取り出した。  
長くて 太い 山芋。

Sちゃんは僕より  
二つ上の五年生だが  
不登校児だった。  
みんなが 朝 誘いに行くと  
得意の木登りで 高い樹に登り  
人が近づくと 小便をかけた。

秋もいよいよ深まったころ  
Sちゃんは僕たちを引き連れて  
山に入った。  
山芋を素早く見つけて掘り出す  
Sちゃんの技には  
大人たちも敵わなかった。

後年 村を出た僕は  
Sちゃんが村一番の百姓となり  
真っ先に家を新築した  
と 聞いた。



いってみつかし 「自然薯」

## 11月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	



つばき

ままごと めんこ

はないちもんめ

みんなで遊んだ帰り道

こがらしびゅーびゅー

吹いてきた

村の鎮守の森影の

真っ赤な樺もほとほとほどり

ひゃー冷てえ

夕焼け空はくうらいぞ

揺れ揺れおては

かあゆいぞ

太郎と次郎が

かけ出した

べへも負けずに

追いかけた

みんなが懐る村の道

ほこりまみれの村の道

ほつりほつりと

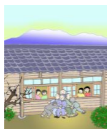
灯がともる

詩：やまさきだけひろ

12月 2007 平成19年

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					





# 昭和30~40年代 昔絵こよみ

2007  
平成19年







# 昭和の四季 カレンダー

2007  
平成19年